



メンテナンスコンソールのメニュー Active IQ Unified Manager 9.12

NetApp
December 18, 2023

目次

メンテナンスコンソールのメニュー	1
Network Configuration（ネットワーク設定）メニュー	1
System Configuration（システム設定）メニュー	3
Support and Diagnostics（サポートと診断）メニュー	4
その他のメニューオプション	5

メンテナンスコンソールのメニュー

メンテナンスコンソールは各種のメニューで構成され、Unified Manager サーバの特別な機能や設定の保守と管理を行うことができます。

Unified Manager をインストールしたオペレーティングシステムに応じて、メンテナンスコンソールは次のメニューで構成されます。

- Upgrade Unified Manager （VMware のみ）
- Network Configuration （VMware のみ）
- System Configuration （VMware のみ）
 - a. サポート/診断
 - b. サーバ証明書をリセットします
 - c. 外部データプロバイダ
 - d. バックアップのリストア
 - e. パフォーマンスポーリング間隔の設定
 - f. SAML 認証を無効にする
 - g. アプリケーションポートを表示/変更します
 - h. デバッグログの構成
 - i. MySQLポート3306へのアクセスを制御します
 - j. 終了します

特定のメニューオプションにアクセスするための番号をリストから選択します。たとえば、バックアップとリストアの場合は、「4」を選択します。

Network Configuration（ネットワーク設定）メニュー

Network Configuration メニューでは、ネットワーク設定を管理できます。このメニューは、Unified Manager ユーザインターフェイスを使用できない場合に使用してください。



Unified Manager が Red Hat Enterprise Linux、CentOS、または Microsoft Windows にインストールされている場合は、このメニューを使用できません。

次のメニュー項目を選択できます。

- * IP アドレス設定 * を表示します

仮想アプライアンスの現在のネットワーク設定について、IP アドレス、ネットワーク、ブロードキャストアドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、および DNS サーバです。

- * IP アドレス設定の変更 *

IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバなど、仮想アプライアンスのネットワーク設定を変更できます。メンテナンスコンソールでネットワーク設定を DHCP から静的ネットワークに切り替えた場合は、ホスト名を編集できません。変更を実行するには、[* 変更をコミットする *] を選択する必要があります。

- * ドメイン名検索設定を表示 *

ホスト名の解決に使用されるドメイン名検索リストが表示されます。

- * ドメイン名検索設定の変更 *

ホスト名を解決する際に検索するドメイン名を変更できます。変更を実行するには、[* 変更をコミットする *] を選択する必要があります。

- * スタティックルートを表示 *

現在の静的ネットワークルートが表示されます。

- * スタティックルートの変更 *

静的ネットワークルートを追加または削除できます。変更を実行するには、[* 変更をコミットする *] を選択する必要があります。

- * ルートを追加 *

静的ルートを追加できます。

- * ルートの削除 *

静的ルートを削除できます。

- * 戻る *

メインメニュー * に戻ります。

- * 終了 *

メンテナンスコンソールを終了します。

- * ネットワークインターフェイスを無効にします。 *

使用可能なネットワークインターフェイスを無効にします。使用可能なネットワークインターフェイスが 1 つしかない場合は、それを無効にすることはできません。変更を実行するには、[* 変更をコミットする *] を選択する必要があります。

- * ネットワーク・インターフェイスを有効にする *

使用可能なネットワークインターフェイスを有効にします変更を実行するには、[* 変更をコミットする *] を選択する必要があります。

- * 変更を確定 *

仮想アプライアンスのネットワーク設定に加えた変更を適用します。変更を有効にするには、このオプション

ョンを選択する必要があります。そうしないと、変更は行われません。

- * ホストに Ping を実行します *

IP アドレスの変更や DNS 設定を確認するために、ターゲットホストに ping を実行します。

- * デフォルト設定に復元 *

すべての設定を工場出荷時のデフォルトにリセットします。変更を実行するには、[* 変更をコミットする]を選択する必要があります。

- * 戻る *

メインメニュー * に戻ります。

- * 終了 *

メンテナンスコンソールを終了します。

System Configuration（システム設定）メニュー

System Configuration メニューでは、サーバのステータスの表示、仮想マシンのリブートとシャットダウンなど、さまざまなオプションを指定して仮想アプライアンスを管理できます。



Unified Manager を Linux または Microsoft Windows システムにインストールしている場合、このメニューには「Restore from a Unified Manager Backup」オプションのみが表示されます。

次のメニュー項目を選択できます。

- * サーバーステータスを表示 *

現在のサーバステータスを表示します。ステータスには「Running」と「Not Running」があります。

サーバが実行されていない場合は、テクニカルサポートに連絡する必要があります。

- * 仮想マシンの再起動 *

すべてのサービスを停止して仮想マシンをリブートします。リブート後、仮想マシンとサービスが再起動します。

- * 仮想マシンのシャットダウン *

すべてのサービスを停止して、仮想マシンをシャットダウンします。

このオプションは、仮想マシンコンソールからのみ選択できます。

- * < ログインユーザー > ユーザーパスワード * を変更します

現在ログインしているユーザのパスワードを変更します。変更できるのはメンテナンスユーザだけです。

- * データディスクのサイズを増やします。 *

仮想マシンのデータディスク（ディスク 3）のサイズを拡張します。

- * スワップ・ディスク・サイズの増加 *

仮想マシンのスワップディスク（ディスク 2）のサイズを拡張します。

- * タイムゾーンの変更 *

タイムゾーンを自分の場所に変更します。

- * NTP サーバーを変更 *

IP アドレスや Fully Qualified Domain Name（FQDN；完全修飾ドメイン名）などの NTP サーバ設定を変更します。

- * NTP サービスの変更 *

を切り替えます `ntp` および `systemd-timesyncd` サービス：

- * Unified Manager バックアップからのリストア *

以前にバックアップしたバージョンから Unified Manager データベースと設定をリストアします。

- * サーバー証明書をリセット *

サーバセキュリティ証明書をリセットします。

- * ホスト名を変更 *

仮想アプライアンスがインストールされているホストの名前を変更します。

- * 戻る *

System Configuration（システム設定）メニューを終了し、Main Menu（メインメニュー）に戻ります。

- * 終了 *

メンテナンスコンソールメニューを終了します。

Support and Diagnostics（サポートと診断）メニュー

Support and Diagnostics メニューでは、トラブルシューティングのサポートを受けるためにテクニカルサポートに送信できるサポートバンドルを生成することができます。

次のメニューオプションを使用できます。

- * ライトサポートバンドル * を生成します

30 日間のログと構成データベースのレコードを含む軽量のサポートバンドルを作成できます。パフォー

マンスデータ、取得記録ファイル、サーバヒープダンプは含まれません。

- * サポートバンドル * を生成します

診断ユーザのホームディレクトリに診断情報を含む完全なサポートバンドル（7-Zip ファイル）を作成できます。システムがインターネットに接続されている場合は、ネットアップにサポートバンドルをアップロードすることもできます。

このファイルには、AutoSupport メッセージで生成された情報、Unified Manager データベースの内容、Unified Manager サーバの内部に関する詳細なデータ、および通常は AutoSupport メッセージや軽量のサポートバンドルには含まれない詳細なログが収められます。

その他のメニューオプション

次に示すメニューオプションでは、Unified Manager サーバでさまざまな管理タスクを実行することができます。

次のメニュー項目を選択できます。

- * サーバ証明書をリセット *

HTTPS サーバ証明書を再生成します。

Unified Manager の GUI でサーバ証明書を再生成します。そのためには、* General * > * HTTPS Certificates * > * Regenerate HTTPS Certificate * をクリックします。

- * SAML 認証を無効にします *

SAML 認証を無効にし、Unified Manager の GUI にアクセスするユーザのアイデンティティプロバイダ（IdP）によるサインオン認証を中止します。このコンソールオプションは、一般に、IdP サーバまたは SAML の設定を使用する問題で Unified Manager の GUI へのアクセスがブロックされる場合に使用します。

- * 外部データプロバイダ *

Unified Manager を外部データプロバイダに接続するためのオプションを提供します。接続が確立されると、パフォーマンスデータが外部サーバに送信されて、ストレージパフォーマンスのエクスポートがサードパーティ製ソフトウェアを使用してパフォーマンス指標をグラフ化できるようになります。次のオプションが表示されます。

- * Display Server Configuration * -- 外部データプロバイダの現在の接続設定と構成設定を表示します
- * サーバ接続の追加 / 変更 * -- 外部データプロバイダの新しい接続設定を入力したり、既存の設定を変更したりすることができます。
- * Modify Server Configuration * -- 外部データプロバイダの新しい設定を入力したり、既存の設定を変更したりすることができます。
- * Delete Server Connection * -- 外部データプロバイダへの接続を削除します

接続を削除すると、Unified Manager は外部サーバとの接続を失います。

- バックアップの復元

詳細については、のトピックを参照してください "[バックアップとリストアの処理の管理](#)"。

- * パフォーマンスポーリング間隔の設定 *

Unified Manager がクラスタからパフォーマンス統計データを収集する頻度を設定するためのオプションを提供します。デフォルトの収集間隔は 5 分です。

大規模なクラスタからの収集が時間内に完了しない場合は、この間隔を 10 分または 15 分に変更できます。

- * アプリケーションポートの表示 / 変更 *

Unified Manager がセキュリティ上の理由から、HTTP および HTTPS プロトコルに使用するデフォルトのポートを変更するオプションが用意されています。デフォルトのポートは、HTTP の場合は 80、HTTPS の場合は 443 です。

- * MySQLポート3306 *へのアクセスを制御します

ホストからデフォルトのMySQLポート3306へのアクセスを制御します。セキュリティ上の理由から、このポート経由のアクセスは、Linux、Windows、およびVMware vSphereシステムへのUnified Managerの新規インストール時にlocalhostにのみ制限されます。このオプションを使用すると、ローカルホストとリモートホストの間でこのポートの表示/非表示を切り替えることができます。つまり、環境内のlocalhostに対してのみポートが有効になっている場合は、このポートをリモートホストでも使用できるようにすることができます。または、すべてのホストに対して有効にすると、このポートのアクセスをlocalhostのみに制限できます。アクセスがリモートホストで有効になっていた場合は、アップグレードシナリオで設定が保持されます。

- * 終了 *

メンテナンスコンソールメニューを終了します。

著作権に関する情報

Copyright © 2023 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。